エコリーの一人言

「分人」、そして「経年美化」でありたい

新しい年が明けました。ようやくマスクなしで人と会うことも増えてきました。しばらく鼻から下のお顔を拝見していなかった方と久々にマスクなしで会うと、同じ時間、同じ言葉を交わしていても二人の間を行き来する心の豊かさ、温かさがどれだけ大きいかを実感します。やはり人間は表情全体で言葉を超えたコミュニケーションをとっているのだとあらためて気づかされました。

作家の平野啓一郎さんに「私とは何か『個人』から『分人』へ」という著書があります。個人には一つの人格が備わっているという理解が一般的です。しかし、平野さんは本当だろうかと問題を投げかけます。対する人、一人ひとりの対人関係ごとに複数の「本当の自分」があるのではないか。この自分の様々な顔を「分人」と定義しているのです。考えてみればAさんと一緒だと、とても会話がはずむ、Bさんだと、相談にのってもらいたいと思う、などなど、出会いごとに自分自身が「分人」になっていることがわかります。人との出会いが増えれば増えるごとに、その関係性から新しい自己を築いていけるとしたら、人生はもっともっと豊かになるに違いありません。

経年劣化というという四字熟語がありますが、逆に「経年美化」という言い方があることを最近知りました。ペルシャ絨毯は、新品よりも人が足で踏んで使いこなされたほうが価値があり値段が上がるのだそうです。日本では陶器で粉引（こひき）というものがあります。赤茶色の素地に白い泥をかけて、ざっくりとした風合いに焼き上げた陶器です。使っているうちに白い表面に計算されない染みがでてきます。これを汚れとは取らず " 味”として愛でるのです。

新しい年、また一つ年をとりますが、「分人」として出会いを重ね、「経年美化」でありたいと願っています。

第一創建株式会社
代表取締役社長　田 中 慶 太